

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第2学年

【単元名】 音読劇をしよう（「お手紙」光村図書 全8時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
(1)カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 (3)ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	C 読むこと(1) エ 場面の様子に着目して, 登場人物の行動を具体的に想像すること。 カ 文章を読んで感じたことやわかったことを共有すること。

【主な学習活動と留意点】

前単元「読むこと（文学的文章）」からのつながり：

「スイミー」スイミーの人物像を捉え, 感想を発表し合った。

- ・スイミーがしたことや言ったことをまとめ, スイミーに言ってあげたいことを考えた。
- ・スイミーを読んでもった感想について, わけも踏まえてグループで発表し合った。

働かせる見方・考え方：前半と後半の対比に着目して, 人物の心情の変化との関係性を意味付けること。

段階	学習活動（時間）	留意点
第一次	1・冒頭の「お手紙を待つ」場面の挿絵から物語に興味をもつ。 ・教師の範読を聞き, 初発の感想をもつ。(1)	<p><b>単元の見通しをもつ</b></p> <p>☞学習後に音読劇を発表することを知らせ, 単元の見通しをもてるようにする。</p>
第二次	2 人物の行動や会話に着目し, 誰の行動や会話なのか把握し, 音読したいところを考える。(2)	<p><b>前単元の既習事項を生かし内容把握する</b></p> <p>☞主語述語の関係に注意しながら, 人物の行動描写や会話を結び付け, お話の内容を捉える。</p>
	3 「お手紙を待つ」二つの場面の比べ, どのように読むのか, どんな動きをするのかを考える。(2)	<p><b>特徴的な表現（教材の価値）に着目して解釈する</b></p> <p>☞二人がお手紙を待つのはじめの場面と後の場面の挿絵や叙述を比較して人物の心情の変化を捉え, 行動の理由を具体的に想像する。</p>
	4 班の中で登場人物や地の文などの役割を分担して, 音読劇を発表する。(2)	<p><b>自分の考えを形成し, 共有する</b></p> <p>☞音読劇をする際のねがいととして, どのように人物の心情を読み取ったのかを発表し, 互いの音読や動きの良さを伝え合う場を設ける。</p>
第三次	5 「お手紙」に出てくる人物に手紙を書いて読み合う。(1)	<p><b>単元で学んだことを活用（一般化）する</b></p> <p>☞自分が読み取った人物の心情に寄り添って文章を書き, 互いに読み合う場を設ける。</p>
	6 単元を振り返る。(1)	<p><b>自分の学びを振り返る</b></p> <p>☞子どもが単元で何を学んだのか, それぞれの学びを自覚できるように自分の言葉でまとめる場を設定する。</p>

次単元へのつながり：「わたしはおねえさん」 すみれと自分を比べて読み, お話のあらすじを紹介する。  
 ・お話の順に, 「すみれちゃん」がしたことや出来事を中心にお話を短くまとめる。  
 ・「すみれちゃん」がしたことの中で一番心に残ったこととその理由, 自分だったらどうするかを考えて紹介する。